

topics  
news

## 抗がん剤治療の患者を支援する「ケモサポート外来」 副作用の辛さや困っていることに専門スタッフが対応

函館中央病院外来化学療法センター(がん化学療法看護認定看護師) 亀谷 朋子

函館中央病院薬剤部係長(がん薬物療法認定薬剤師) 松岡 佳吾



ケモサポート外来を担当するがん化学療法看護認定看護師の亀谷朋子さん(右)と  
がん薬物療法認定薬剤師の松岡佳吾さん(左)。



**函** 館中央病院(本橋雅壽病院長)は、4月より抗がん剤治療を受けている患者への支援を目的とした「ケモサポート外来」を同病院内1階に開設した。ケモとは化学療法を意味するケモセラピーに由来する。化学療法は抗がん剤を用いてがんを治療することで、抗がん剤にはがん細胞の増殖を抑えたり、再発や転移を防ぐ効果がある。化学療法については、以前は入院による治療が主流だったが、

近年は新しい抗がん剤や副作用を抑える薬を組み合わせることで、外来で化学療法を実施することが可能となった。同病院も外来化学療法センターを開設後は治療件数も年々増えている。仕事を続けながら化学療法を受ける人も少なくない。

このような抗がん剤治療の患者の増加により、同病院では多職種7人による「がん専門サポートチーム」を立ち上げ、ケモサポート外来の運用を検討、

スタートさせることにした。担当しているのはがん化学療法看護認定看護師の亀谷朋子さんと山本伸洋さん、がん薬物療法認定薬剤師の松岡佳吾さんの3人だ。

亀谷さんは「がん患者さんが受診する際は、最初の採血などによる検査から、担当医の診察まで時間が空きますが、ケモサポート外来はその待ち時間を有効に活用することができます」と話す。抗がん剤は分子標的薬、さらには免疫チェックポイント阻害剤の登場により効果の長期持続も期待できるようになったが、一方ではこれまでとは異なる副作用も起きている。松岡さんは「個人差はありますが、予測できる副作用の症状や副作用の予防法・対処法などを理解してもらい、副作用発生時には素早く対応できるようにサポートしています」と言う。

「外来受診の場合、限られた時間の中で生活で困っていることを医師に話すのは難しく、相談できる場が必要だと感じていました」と亀谷さん。「抗がん剤治療の継続は患者さんの生活を支えることが重要です」。現在、腫瘍内科、消化器内科、泌尿器科、婦人科が対象となっているが、今後は診療科を拡大していく予定だ。「外来では抗がん剤の副作用の辛さや困っていること、また治療の継続に迷う場合など、さまざまな相談に対応しています」と松岡さんは利用を呼びかけている。